

ネツシン

ネツシンの細管型標準温度計がモノづくり部品大賞「電気・電子部品賞」を受賞した。ステンレス保護管先端に、外径0.8mm、長さ8mmの高感度測温素子が納められており、自社従来型比で、素子の直径・長さを3分の1以下に小型化。応答速度を同従来比で数十倍とした。プローブのほか、省スペース性を生かし、半導体チップ表面に張つての温度計測が容易。

高精度の基礎は、高精度セラミックスと太さ18μmの高純度白金線。同白金線を、職人芸で100μmの抵抗となるように微細コイル化。同コイル4本を高純度セラミックスに空けた四つの微細孔に封止しステンレスプロセス先端に仕込んだ、高応答性に加え、測定値の直線性、再現性(±2%)に優れる。また、500度C環境下でも±2%と測定値の安定性を保つ。

ADEKA

ADEKAは顧客密着型の開発スタイルを強化する。1981年に事業化した高純度塩素を皮切りに電子材料事業の領域拡大を進め、ユーザとともに、材料合成、蒸留精製、容器管理、分析などの技術を高めてきた。またオルトケイ酸テトラエチル(TEOS)などのSi材料やドーパント材料、半導体メモリーのキャパシター用高誘電材料の安定供給で、信頼を築いてい

研究開発(R&D)では、社にA/D成膜装置を持ち、基礎成膜データをベースとした材料提案を行える体制を整備。韓国では高誘電材料の現地生産体制を確立し、2010年には現地R&Dセンターを設立するなど、今後も拡充を進める。技術革新に伴う微細化対応やコスト要求には同社の強みを生かし、ユーザへの貢献を続ける。

次世代を磨く。

技術を開き、心をつなぐ

FUJIMI

FUJIMI INCORPORATED

次世代の磨きを担いしつづける
パウダーテクノロジーの
リーディングカンパニー。

株

株式会社フジミインコーポレーテッド

〒452-8502 愛知県清須市西枇杷島町地領2-1-1
TEL.052-503-8111
URL: http://www.fujimiinc.co.jp

進歩ーそして進化

BUMPINGサービス

金・はんだ・銅・積層

創業以来20年間の研究成果と豊富な経験で
培った高い技術力、徹底した品質管理

熱拡散シート

放熱・均熱・伝熱

独自の技術で銅板・アルミ板とグラファイトを
積層させた薄型軽量の高性能積層シート

RFID

オリジナルインレイ・カスタマイズ

高品質タグ及び、特殊環境に対応した
タグをバイオーターで提供

販売元 JNC株式会社 電子部品事業部

製造元 サン・エレクトロニクス株式会社

TEL 03-3243-6080

TEL 0966-62-4123

http://sun-electronics.jp/

infosunelectronics1@jnc-corp.co.jp



有力各社の製品・技術

＜順不同＞

JSSR

スマートフォンやタブレット型パソコンといったデジタル機器の発達と音楽・動画・写真など大容量コンテンツの高速処理実現のため、電子デバイスは高性能化と省電力化が求められている。JSSRは独自のコア技術で、微細化と「More than More」が進む半導体産業に欠かせない各種電子材料を提供している。さらなる微細化に向け改良が進むフッ化フルゴン(Ar

F)液浸露光技術に対応したフォトレジストと多層材料や、極端紫外光(EUV)など次世代露光技術に対応するフォトレジスト、CMP(化学機械研削)材料、インターコネクト材料などのプロセス材料、スルリシリコンビビア(TSV)プロセス向け先端実装材料、イメーゲンサーやLED向け材料など、高品質で高性能な材料を世界市場に提供している。

JNCC

JNCCグループのサン・エレクトロニクスは創業以来、20年以上の研究成果と豊富な経験で培った高い技術力で顧客のニーズに応え、高品質なパンパ製品(突起電極)の提供などを行ってきた。特にパンパビジネスで、同社は電子機器の多様化・小型化に対応する狭ピッチ金バンプ、錫銀を用いた鉛フリーハンパ、銅バンプのほか、金の価格高騰に対応する新しい材料を

使ったパンパの量産化にも着手している。さらに、これからの生活環境変化に対応すべく、無線識別(RFID)タグの製造・パンパ構築を含めたソリューションサービス、熱処理用拡散シートなど、新しい分野にも積極的な展開を図っている。同社は「御客様と共に有り続け、感動を与え続ける企業」を目指す。

太陽日酸

太陽日酸は高度なガス制御技術を生かして、高品質なガス供給に加え、生産性の向上、環境負荷の低減などを総合的にサポート。半導体デバイスなどの装置や機器もラインアップしている。MOVCD装置では微細なガス・ハンドリング技術や超真空技術など、独自のノウハウを生かし、世界トップクラスの量産性を持つ新型機により、新たな市場であるパワー半導体向け装置需要開拓に取り組んでいる。

いられる有機金属相成長(MOCVD)装置や高純度ガス精製装置、排ガス処理装置、シリンドリャキャビネットなどの装置や機器もラインアップしている。MOVCD装置では微細なガス・ハンドリング技術や超真空技術など、独自のノウハウを生かし、世界トップクラスの量産性を持つ新型機により、新たな市場であるパワー半導体向け装置需要開拓に取り組んでいる。



昨年のSEMICONは450mm対応の展示が目玉された (SEMICON TAIWAN 2012)

環境負荷低減技術も高レベル

富士通セミコンダクターではクリーンルーム内の温湿度や循環回数の変更に取り組むことで省エネ化を実現した。製品の品質に悪影響を及ぼさない配慮をしながら、温湿度を制御することがカギだという。また、クリーンルーム内で微粒子の影響を出さずに空気の循環回数をこれまで減らせるかということにも挑戦し、成果を上げた。

同社環境推進室の牧場プロジェクト課長は「半導体製造ではクリーンルーム内の温湿度など、製造環境の少しの変化が製造品質に影響を及ぼしてしまふ。苦しいのは安定的に製品を作りながら、すなわち失敗が許されない中、こうした部分の改善を行ったことだ」と語る。

同社は薬品やガス、排水の処理などにも徹底して取り組んでいる。工場から放流する排水が地域の生態系に悪影響を及ぼしていないことを示すため、三重工場では放流水でメダカの飼育

を行っている。メダカは水質の変化に大変敏感だが、その工場では産卵・ふ化・成長・そしてまた産卵という循環に成功し、工場排水を高いレベルで浄化処理することに成功した好事例といえるだろう。

定方孝之「グリーンプロダクト推進部長は「こうした取り組みの成果によって、二酸化炭素(CO2)や重点化学物質の削減など、12年度に目指していた環境行動計画の目標はすべて達成できる見込みだ」という。これまで日本の半導体デバイスメーカーや製造装置、材料メーカーは300ミリのウエハーでの生産やナノ回路線幅のプロセスの実現など、最先端の技術開発実現に貢献してきた。これから450ミリのウエハー移行や、生産プロセスにおける環境負荷低減技術において、世界をリードしていく。

排水を浄化してメダカの飼育(富士通セミコンダクター)。

電機・電子技術商社のリーディング・カンパニーとして。
「立花エレテック」が見つめるのは、FA・ITのさらなる未来。

ELECTRIC ELECTRONICS TECHNOLOGY

ソリューション事業
FAシステム事業／情報通信事業
半導体デバイス事業
施設事業／海外事業

先進技術で豊かな未来を――

株式会社 立花エレテック

TACHIBANA ELETECH

東証・大証 第一部上場

本社/〒550-8555大阪市西区西本町1-13-25 TEL.06-6539-2718
支社/東京・名古屋 支店/東関東・北関東・神奈川・三重・三河・南大阪・神戸・姫路・九州 他5営業所
海外/シンガポール・香港・台湾・上海・北京・深圳・韓国・タイ

http://www.tachibana.co.jp/

